

まんだら通信

第231号 (通巻266号)

平成27年09月 西暦2015年 佛暦2581年 皇紀2675年

安房国八十八ヶ所 第一番札所
295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍沙
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
<http://www.shiunji.org/>
Mail post@shiunji.org

もういちど 敗戦後七十年

またその話なの?という方もおいでと思いますし、先月の話と重なるところもあると思いますが、我慢して聞いてほしいのです。

先月号を読んだ、或る有名な仏教の元教授から「恥ずかしげもなくこんなウソを言う憲法」と書いてある『まんだら通信』は、私と考えが違うので以後送らないで欲しい。というハガキをもらいました。

今の憲法は、連合軍が占領中に、日本が二度と立ち上がれないようにと原案を作り、僅かの日数で、而も法律には素人の若いGHQ職員が作り、日本の国会に押し付けたもの、ということとは、今では常識なのです。

もう一つは「坊さんのくせに、戦争(つまり人殺し)を認めるようなことを言うとは許

せない」と、苦々しく思う人もいるでしょう。確かにお釈迦さまは「殺してはならぬ」とおっしゃいました。

インドでは、修行僧は教えを広めるため毎日、村や町を遊行しました。二期の三ヶ月は『雨安居』といって、一ヶ所に定住して瞑想したり、普段は出来ない学問的な勉強をしました。

この季節は虫や植物の動きが活発になるので、歩き回ると踏みつけて殺すことがあるから、といわれます。禅系統のお坊さんの持ち物の払子は、もともとは体に近づくハエや蚊を追い払うためのものでしょうし、飲み水は、小さな虫を飲み込んで殺すことがないように、布で濾してから飲みました。

このように、殺してはいけないのは人間だけではなく、命あるものすべてということですね。勿論、穀物も野菜もダメ、ということですね。これでは生きることが出来ません。だから、命を戴いていることの感謝を忘れないように、という『努力目標』だと私は思っています。

日本人は昔から、命あるものへの感謝を忘れませんでした。捕鯨が行なわれた、日本各地の沿岸地方に残る『鯨塚』を見てもよく分かります。それどころか命のない道具にまで命を感じ

て、感謝の心を表し『針供養』、『筆供養』などをします。

日本人が命を大切に思う気持ちは、誇りにしていることではないでしょうか。これは相手への思いやりと同じ意味です。ですから外

国との交渉でも、自分の言い分だけを押し付けることはしませんでした。今でも同じことで、大抵は押し切られています。

ですが、誠意を尽くし条理を尽くしても、力で押し切るうとする相手には、「こちらにも大きなゲンコツがありますよ」と教えなければならぬ時が、残念ですがあります。

憲法学者とか平和主義者といわれる人たちは、武力は絶対にいけないといっています。つまり、民族が根絶やしになっても宜しいということ。シヤカ国は、お釈迦さまの教えを守って、一人残らず虐殺されました。或る意味、武力よりも強い意志が必要ですが、「戦争は絶対にダメ」という人たちにその覚悟があるのでしょうか。

先月三十日、国会に向かって、デモがありました。マイクを握った山口二郎法政大学教授は、そこにいない安倍さんに対して、「お前は人間じゃない」と叫んだそうです。アニメで有名な映画監督の宮崎駿さんは、安倍さんを「愚劣」と罵倒し、専修大学の広瀬清吾教授は「バカか嘘つきか」といったとか。

そもそも留守の家の前で(国会は、土日お休み)大勢で怒鳴り散らすなど、主催者発表で十二万人(警視庁は一万三千人)集まって、「戦争反対!、安保反対!」って、おおよそ大人のすることではありません。暴力も反対の筈なのに、一国の首相を呼び捨てにするような、品性のかけらもない、この言葉の暴力をどう説明するのでしょうか。

デモをいけないとは思いません。

しかし、居丈高に相手をののしるだけで、暖かみのない、このような言い分を、普通の国民は決して支持しないのではないのでしょうか。

共産党や民主党という野党、朝日新聞などは、「戦争法案反対、徴兵制反対、アメリカの戦争に巻き込まれる」などと、根拠のないことを言っただけ不安をかき立てます。そもそも自民党は前々から、安保条約の見直しを言っただけです。安倍さんが言う条約の見直しがいけないのなら、去年の総選挙で堂々と渡り合うべきだった

でしょう。議席を増やして国会で前向きな議論をすべきです。

先頃日本国籍を得た中国生まれの石平さんは、日本のリベラリズムは死んだ、という記事の中で「今から二六年前、多くの中国人青年が北京の天安門広場で、それこそ命がけの民主化運動を展開した。しかし我々は本物の独裁者である鄧小平にさえ、お前は人間じゃないというような暴言を吐いたことはない。我々はただ民主化の理念を説いただけだった。だから解放軍の戦車にひき殺されたりして鎮圧されても、我々には誇りが残った。」といっています。

今、世界のどの国も自分だけで国を守ることが出来ません。万一の時はお互いに助け合ひましょう、と結んだのが日米安保条約ですね。今まではアメリカに頼り切りでしたが、それでは何時までもたつても、本当の意味の独立国になれません。少しでも応分の責任を果たすための見直し、今の国会で審議している法案ですね。

順序としては、憲法を改正するのが先ですが、手続きが大変で間に合いません。常識で考えれば極々当たり前の話で、万一の時は自分の身は自分が守る、ということではないでしょうか。

にっぽん人情小唄 三遊亭鳳豊

第一一六話 劇団

演劇の世界って、おもしろいですねえ。僕の聞いた話に、こんなのがあります。

ある名優がいました。この方、セリフを覚えようとしないことで有名でした。セリフを覚えようとしないのかと聞くと、テレビや映画のセットでは、自分の動く場所の近くの柱の裏とか、カメラから見えないところに、自分のセリフを書いておくのです。それを見ながらしゃべる。逆に言えば、セリフの書いてある場所、場所に動いてセリフを言うわけです。

もちろん仲間はそのことを知っていますが、うまくカムフラージュするので、出演者以外はほとんどわかりませんし、舞台でも観客は知る由もありません。

そんな彼がある時、密かにセリフを小道具の扇子に一生懸命書き写しているのを、共演俳優が見つけた。「一度は本気で困らせてやるよ」と、いざ、本番の舞台の上で、彼が扇子を出した途端、その扇子を奪って逃げたのです。とられたほうは必死で追いかけます。観客は急に舞台上で鬼ごっこが始まったので、あれよあれよとただ見ているだけです。

そのうち、扇子を奪ったほうの役者は舞台の袖に消えました。そうしたら、どうなると思います？ セリフを書いたカンニングペーパーがなくなつたのですから、立ち往生すると思うでしょ。これが、ちがった。なんと、その役者、懐からもうひとつ扇子を出した……。そこにもセリフが書いてあった……。名優でしょう！。それくらいやるなら、セリフを覚えた方が早いでしょうにねえ。

私の話のなかに、一年半ほど前に「命の花見」という人情噺があつたのをご存知でしょうか。茨城県の龍ヶ崎で焼鳥屋さんをやってた元東映の俳優、大辻慎吾さんと筑波大学を定年になった松本肇さんという元教授が、上野公園で花見をしながら、「人生、もうひとつ花見かせよう」と、お芝居をやるよと決心した話です。今日の話は、その続きです。

芝居をやるよとしたって、そう簡単にはできない。いったい、どこでやるんだ。稽古場はどうする。小道具は？

それこそ、七十歳を過ぎた老優がセリフを覚えられないだろうか。不安は募りましたが、俳優の仕事のほうは大辻さんに任せ、松本先生、自転車で龍ヶ崎市内をまわり、地域のコミュニティ・センターの和室を予約しました。そして、そこを大辻さんのひと月一回の稽古場に、稽古を見ては「そこがおかしい」、「時間が長すぎる」、「台本とちがう。勝手に筋を変えるな」とダメ出しをしました。

年上であり、なお、衰えたといえども、東映や日活で菅原文太さんや渡哲也さんともいっしょに映画に出ていた大辻さんは、おもしろくない。

「そうはいっしょだよー、ここはねー」「ダメです」「ああ、そうか、ダメかなあ」でも、自分の再起のために一生懸命、自転車をこいで稽古場探しをしてくれる元大学教授には、結局は、頭を下げるしかありません。そんなある日、「大辻さん、とうとう第一回公演決り

ましたよ。場所は、龍ヶ崎文化会館小ホールですよ」と、松本先生が大辻さんの狭いアパートに駆け込んできたのです。

なんでも、「どうせ無理だろう」と思いながらも申し込んだら、たまたまOKが出たというのです。

龍ヶ崎文化会館といえば、地元では知らない人がいない。演歌の大御所のコンサートだつて毎年行われるホールです。大ホールに併設されている小ホールといえども、収容人数は二百五十人も入りません。普通なら、松本先生、大変な場所を予約してきてしまった、と誰でも思う。

ところが、これが龍ヶ崎の人たちの心を躍らせたのでした。

「え、あの焼鳥屋のおじさんが、ひとり芝居をやるんだつてさ。行こう、行こう」という昔のお客さんいれば、「高齢者ががんばっているのよ。応援しなくちゃ」と松本先生お手製のチラシを配ってくれる民生委員のおばちゃんも出てきた。

そして、当日、次々とお客さんが集まり、大辻さん、感激のあまり、見に来てくれた人たちを全員、舞台上上げて、みんなで三本締めをしたのです。

いいことは、続きますね。それからというもの、毎月毎月、ひとり芝居が続いていますと、「焼鳥屋のおじさん、僕のことを覚えていますか」とひとりの青年が訪ねてきました。

「おお、あの時のボクか。大きくなったなあ」お父さんとお母さんが目が不自由なので、小学生の頃から大辻さんの屋台の焼鳥を買いに来ていた少年が、いま、コンビニの店長になつて、再び大辻さんの前に現れたのです。

おじさん、俺も芝居をやってみないなあ」「お父さん、お母さんは元気か」「はい、おじさんが芝居をはじめたって言ったら、喜んでました。目が悪いから見られないけど」

その時、大辻さんは思ったのです。この町で劇団をつくらうと。やりたい人なら誰でもいい。

演技経験なんかなくていい。お年寄り、大いに歓迎。見る人もやる人も町の人。そんな素人劇団が町にあつたら、どれだけ楽しいか。松本先生も喜びました。

するとどうでしょう。町の長老から主婦や高校生まで、劇団員の応募があつたのです。その上、「もう着なくなったから使つて」と大量の着物が送られてきたり、なかには、女性用のカツラまで、大辻さんのものに届きました。

その話を聞いた地元の新聞やミニコミ誌が次々と稽古風景取材にきました。こうして、元焼鳥屋さんの劇団が誕生し、第一回の公演がコミュニティ・センターの和室で行われました。

お芝居のタイトルは「息子の結婚」。ある村に外国人の嫁が来ることになって、大騒ぎになる人情喜劇です。大辻さんはハゲで、鼻を真っ赤にした酔っ払いの村長役。コンビニの店長が主人公の息子役。そして、町の長老がカラオケで鍛えたノドを披露して、大団円。たくさん集まったおばあちゃんたちが金歯を見せながら、おなかをよじつて笑う、かん高い声がいつまでも、コミュニティ・センター、の外まで響いていました。

あそか基金・まんだら通信へのお力添え有り難うございます

山川紀代様	安藤ふよ様	埼玉満福寺様	小千谷慈眼寺様	丸山渡邊利昌様	昭和板金様	加藤石油様	吉田満寿雄様	金房保様	林趙様	高田博様	佐藤恵重様	池田英乗様	奥泉裕史様	安西局様	清野守正様	千倉長性寺様	三重光友勝美様	館山遍智院様	東京内田政子様	芝田百合子様	笹元様	高山勝利様	横渚吉田様	阿部エイ子・柿沼紀子様	高橋正夫様	はたや様	山口美恵子様	櫻井照子様	土屋茂夫様	吉田宣男様
木曾庄右衛門様	木全米子様	吉田松夫様	福原大家様	加藤みつ子様	鈴木茂左衛門様	安西穎子様	浅沼進子様	鈴木一幸様	山口藤衛門様	神栖野口治雄様	南房総市社会福祉協議会様	古谷廣司様	風早不動渡邊英雄様	関隆晴様	安西稔様	佐々木清様	あそか会様	匿名希望の皆様	スリランカに“世界一小さな教育基金”があります。切り盛りしているのはアンギラサお坊さんです。有り難いことです。それもこれも皆様のご援助があればこそです。											



アメリカに穀物については50%、農産物全体では26.4%。日本の場合は15.6%で、とても過保護とは言えないのが実情だそうです。食糧安全保障ということから言うと、全くお寒い有り様だそうです。政府が政策を変えて農業が活性化すれば、それは地方の活性化になり、農業の若い跡継ぎが増えて嬉しいことになりますね。▼今月の野草はハマカンゾウ【ユリ科ワスレナグサ属】主に海岸近くの岩場などの、土地が痩せたところを好んで生えています。7月末には咲き始めます。梅雨時に咲くヤブカンゾウやノカンゾウなどの仲間ですね。2015.09.09 龍渉

▼光院矢の如しとか。もう一ヶ月が過ぎました。流石の猛暑も影を潜めて、生き返る思いをしています。▼1ページの写真は善財童子です。平成18年6月号で一度ご紹介しました。華嚴経入法界品に登場する修行者で、文殊菩薩の勧めで、遊女から子供、仏教以外の先生など53人を尋ね歩いて修行を続け、普賢菩薩のもとで悟りを開くという筋立てだそうです。この絵は、二十歳で亡くなった次女の供養のために、仏画家田治見美代子さんが描いてくださったもので、伝統に従いながら現代風の暖かさがとても気に入っております。▼今月の人情小噺。去年6月号(215号)の『いのちの花見』の続きになります。保存してあったら、そちらもお読みいただくと、もっと感動します。パソコンからだと、紫雲寺のホームページに『まんだら通信』の入り口があります。ご参考までに。▼今月24日(木)午後1時半から、例年通りのお施餓鬼を行います。彼岸中のしのぎやすい季節です。お誘いあっておいでください。▼日本ほど農業を保護していない国はない、というお話、知っていましたか。三橋貴明さんが雑誌will10月号で言っていて、今の今まで逆だと思っていたのでビックリしました。ヨーロッパ諸国は、農家の所得の90%以上が税金からでこれは公務員と同じ程度ですね。

余滴

